古文ドリル：「て」の識別 100問

対象：高校生・大学受験生（共通テスト〜難関私大・国公立二次まで） **著作権**：個別指導塾フィット / 中本裕太

はじめに：「て」の正体（5パターン）

古文の「て」は識別問題で頻出。大きく **5種類** あります。

種類	接続/品詞	判別ポイント	例
① 接続助詞「て」	連用形接続	動作の連結「〜して」	行き**て**、見る
② 完了の助動詞「つ」 連用形「て」	連用形接続	「て＋き／けり／たり」	行き**て**けり
③ 格助詞「にて」の一部	体言接続	「Aにて B」	京**にて**生まる
④ 接続助詞「して」の一部	連用形	「〜くして」「〜にして」	心安く**して**
⑤ 形容詞・形容動詞連用形語尾の「て」（「く＋て」等）	形容詞	「〜くて／〜にて」	高く**て**広し

識別の鉄則

1. **直前の語の活用形と品詞** を見る
2. 動詞の連用形＋「て」 → 接続助詞 or 完了「つ」連用形
3. 体言＋「にて」 → 格助詞「にて」
4. 形容詞・形容動詞連用形＋「て」 → 形容詞・形容動詞語尾
5. **下接語** を見る
6. 「て＋き／けり／たり」 → 完了「つ」連用形（過去・存続と結合）
7. 「て＋動詞」 → 接続助詞
8. **完了「つ」連用形「て」** と **接続助詞「て」** の見分け
9. 後ろに過去・存続の助動詞 → 完了「つ」連用形
10. 後ろに別の動作・状態 → 接続助詞
11. **格助詞「にて」** は場所・時間・手段を示す（〜で／〜によって）

🎯 解き方のコツ（時短テクニック）

> 「識別の鉄則」は文法的に正しい順序。
> こちらは **試験本番で3秒で答えを出す** ための実戦テクニックです。

コツ① 「て」の後ろを最初に見る

「て」が出てきたら **直後の語** に視線を飛ばす。 - 後ろが **き／けり／たり／ぬ** → **完了「つ」連用形「て」**（例：行き**て**けり／知り**て**たり） - 後ろが **動詞・別の動作** → **接続助詞「て」**（例：行き**て**見る／聞き**て**笑ふ）

「て＋過去・存続系」なら完了、「て＋次の動作」なら接続。

コツ② 「にて」と来たら格助詞のニオイ

「にて」のかたちは要注意。 - **体言＋にて** → 格助詞「にて」（場所・時間・手段）（例：京**にて**生まる／笛**にて**奏す） - 連用形＋にて → 「に」（連用形語尾）＋「て」（接続助詞）→ 形容動詞や助動詞「ぬ」の一部の可能性

直前が名詞なら迷わず格助詞「にて」。

コツ③ 「〜くて／〜にて」は形容詞・形容動詞の語尾

- 形容詞連用形「〜く」＋「て」（高く**て**広し）
- 形容動詞連用形「〜に」＋「て」（静か**にて**清し）

「く」「に」の後ろに「て」が来ているなら、それは独立した識別対象ではなく、 **形容詞・形容動詞の連用形＋接続助詞** の合体形。

コツ④ 「して」は2つに分かれる

- 連用形＋して → 接続助詞「して」（〜して）
- 体言＋して → 格助詞「して」（〜とともに／〜の手段で）

「して」を見たら **直前** を確認。動詞連用形なら接続、名詞なら格助詞。

試験本番でのチェック順序

1. 「て」の **直後** を見る（き／けり／たり／ぬが来ていないか）
2. 直後が過去・完了系 → 完了「つ」連用形で確定
3. 「にて」になっていて直前が体言 → 格助詞「にて」で確定
4. 「くて／にて」のかたち → 形容詞・形容動詞の連用形＋接続助詞

→ この順番で **3秒** で答えが出ます。

よくある引っかけ

- 「て＋けり／たり」を接続助詞と勘違いする（実は完了「つ」連用形）
- 「にて」の前が連用形か体言かを誤判定（格助詞か別物かが決まる分岐点）
- 「して」を全部接続助詞と決めつける（「彼**して**告げよ」のような格助詞用法あり）

採点表

- 基礎（Q1〜Q20）：　／20
- 標準（Q21〜Q50）：　／30
- 応用（Q51〜Q80）：　／30
- 入試レベル（Q81〜Q100）：　／20
- 合計：　／100

【第1部】基礎編（Q1〜Q20）

5パターンを識別する基本問題。

Q1. 次の傍線部「て」を識別せよ。

> 京に行き**て**、人に会ふ。

答え：接続助詞「て」 **解説**：「行き」連用形＋「て」＋動詞「会ふ」。動作の連結。「京に行って、人に会う」。

Q2. 次の傍線部「て」を識別せよ。

> 物書き**て**けり。

答え：完了の助動詞「つ」連用形「て」 **解説**：「書き」連用形＋「て」＋過去「けり」。「物を書いてしまった」。「て＋けり」は完了「つ」連用形の典型。

Q3. 次の傍線部「て」を識別せよ。

> 京**にて**生まる。

答え：格助詞「にて」 **解説**：体言「京」＋「にて」＋動詞「生まる」。場所を示す格助詞。「京で生まれる」。

Q4. 次の傍線部「て」を識別せよ。

> 高く**て**広し。

答え：形容詞ク活用「高し」連用形「高く」＋接続助詞「て」 **解説**：「高く」（ク連用）＋「て」＋形容詞「広し」終止。「高くて広い」。形容詞連用形＋「て」で並列。

Q5. 次の傍線部「て」を識別せよ。

> 静かにし**て**眠る。

答え：「して」（サ変連用「し」＋接続助詞「て」） **解説**：「静かに」（形容動詞「静かなり」連用）＋「し」（サ変「す」連用）＋「て」（接続助詞）。「静かにして眠る」。

Q6. 次の傍線部「て」を識別せよ。

> 出で**て**行く。

答え：接続助詞「て」 **解説**：「出で」下二段「出づ」連用形＋「て」＋動詞「行く」。「出ていく」。

Q7. 次の傍線部「て」を識別せよ。

> 月見**て**けり。

答え：完了の助動詞「つ」連用形「て」 **解説**：「見」上一段連用＋「て」＋過去「けり」。「月を見てしまった」。

Q8. 次の傍線部「て」を識別せよ。

> 道**にて**人に出会ふ。

答え：格助詞「にて」 **解説**：体言「道」＋「にて」＋動詞「出会ふ」。場所を示す格助詞。「道で人に出会う」。

Q9. 次の傍線部「にして」を識別せよ。

> あはれ**にして**しみじみと泣く。

答え：格助詞「にして」 **解説**：「あはれ」（語幹）＋格助詞「にして」＋副詞「しみじみと」＋動詞「泣く」。「にして」は「〜であって・〜の状態で」の意で、状態・資格を示す格助詞。「しみじみとした様子で泣く」。

Q10. 次の傍線部「たり」を識別せよ。

> 寝**たり**。

答え：完了・存続の助動詞「たり」終止形 **解説**：「寝（ね）」（下二段連用）＋完了・存続「たり」終止。「眠っていた／眠った」。連用形＋「たり」の標準形。

Q11. 次の傍線部「て」を識別せよ。

> 思ひ**て**問ふ。

答え：接続助詞「て」 **解説**：「思ひ」連用＋「て」＋動詞「問ふ」。「思って尋ねる」。

Q12. 次の傍線部「て」を識別せよ。

> 嵐**にて**舟壊れぬ。

答え：格助詞「にて」 **解説**：体言「嵐」＋「にて」＋動詞「壊れ」＋完了「ぬ」。原因・手段を示す格助詞。「嵐で舟が壊れてしまった」。

Q13. 次の傍線部「て」を識別せよ。

> 月清く**て**夜更けず。

答え：形容詞ク活用「清し」連用形「清く」＋接続助詞「て」 **解説**：「清く」（ク連用）＋「て」＋「夜更けず」。「月が清らかで、夜が更けない」。

Q14. 次の傍線部「て」を識別せよ。

> 道に迷ひ**て**けり。

答え：完了の助動詞「つ」連用形「て」 **解説**：「迷ひ」連用＋「て」＋過去「けり」。「道に迷ってしまった」。

Q15. 次の傍線部「て」を識別せよ。

> 庭**にて**遊ぶ。

答え：格助詞「にて」 **解説**：「庭」＋「にて」＋「遊ぶ」。場所を示す格助詞。「庭で遊ぶ」。

Q16. 次の傍線部「て」を識別せよ。

> 風吹き**て**寒し。

答え：接続助詞「て」 **解説**：「吹き」連用＋「て」＋形容詞「寒し」終止。「風が吹いて寒い」。

Q17. 次の傍線部「て」を識別せよ。

> 春来**て**けり。

答え：完了の助動詞「つ」連用形「て」 **解説**：「来（き）」カ変連用＋「て」＋過去「けり」。「春が来てしまった」。

Q18. 次の傍線部「て」を識別せよ。

> 心して**仕うまつる**。

答え：「して」（サ変連用「し」＋接続助詞「て」） **解説**：「心」（名詞）＋「し」（サ変連用）＋「て」＋謙譲「仕うまつる」。「気をつけてお仕え申し上げる」。 ※「心して」で「気をつけて」の慣用表現。

Q19. 次の傍線部「て」を識別せよ。

> 雨降り**て**川あふる。

答え：接続助詞「て」 **解説**：「降り」連用＋「て」＋動詞「あふる」。「雨が降って川があふれる」。

Q20. 次の傍線部「て」を識別せよ。

> 都**にて**住まひす。

答え：格助詞「にて」 **解説**：「都」＋「にて」＋「住まひ」＋サ変「す」。「都に住まいをする」。

基礎編　／20

【第2部】標準編（Q21〜Q50）

接続助詞と完了の見分け、係り結び・敬語が絡む応用問題。

Q21. 次の傍線部「て」を識別せよ。

> 旅し**て**けり。

答え：完了の助動詞「つ」連用形「て」 **解説**：「旅し」（サ変連用）＋「て」＋過去「けり」。「旅をしてしまった」。

Q22. 次の傍線部「て」を識別せよ。

> 月隠れ**て**夜暗し。

答え：接続助詞「て」 **解説**：「隠れ」下二段「隠る」連用＋「て」＋形容詞「暗し」終止。「月が隠れて夜が暗い」。

Q23. 次の傍線部「て」を識別せよ。

> 帝、大臣を召し**て**いはく。

答え：接続助詞「て」 **解説**：四段「召す」連用形「召し」＋接続助詞「て」＋「いはく」（〜が言うことには）。「帝が大臣を呼び寄せておっしゃることには」。「仰す」は尊敬の本動詞なので、自分（1人称）に対しては使わない。3人称（帝）が主語の例に修正。

Q24. 次の傍線部「て」を識別せよ。

> 御使ひに**て**参る。

答え：格助詞「にて」 **解説**：体言「御使ひ」＋「にて」＋謙譲「参る」。資格・身分を示す格助詞。「使者として参上する」。

Q25. 次の傍線部「て」を識別せよ。

> 春過ぎ**て**夏来たる。

答え：接続助詞「て」 **解説**：「過ぎ」上二段「過ぐ」連用＋「て」＋動詞「来たる」。「春が過ぎて夏が来る」。

Q26. 次の傍線部「て」を識別せよ。

> 物食ひ**て**寝ぬ。

答え：接続助詞「て」 **解説**：「食ひ」四段連用＋「て」＋「寝ぬ」。「物を食べて眠る」。

Q27. 次の傍線部「たり」を識別せよ。

> 笛吹き**たり**。

答え：完了・存続の助動詞「たり」終止形 **解説**：「吹き」（四段「吹く」連用）＋完了・存続「たり」終止。「笛を吹いていた／吹いた」。連用形＋「たり」の標準形。

Q28. 次の傍線部「て」を識別せよ。

> 鶴、首長く**して**美し。

答え：「くして」（形容詞ク連用「長く」＋サ変連用「し」＋接続助詞「て」） **解説**：「長く」（ク連用）＋「し」（サ変連用）＋「て」＋形容詞「美し」。慣用表現「〜くして」（〜していて）。

Q29. 次の傍線部「て」を識別せよ。

> 言ひ**て**やりぬ。

答え：接続助詞「て」 **解説**：「言ひ」連用＋「て」＋動詞「やりぬ」。「言ってやってしまった」。

Q30. 次の傍線部「で」を識別せよ。

> 物言は**で**、ただ涙のみぞ流るる。

答え：傍線部「で」は接続助詞「で」（打消接続「〜ないで」） **解説**：四段「言ふ」未然形「言は」＋「で」（打消接続）。「物も言わずに、ただ涙ばかりが流れる」。「で」は「て」と区別される打消接続の助詞（古文でよく出題される）。

Q31. 次の傍線部「て」を識別せよ。

> 川**にて**舟に乗る。

答え：格助詞「にて」 **解説**：「川」＋「にて」＋「乗る」。場所を示す格助詞。

Q32. 次の傍線部「て」を識別せよ。

> 静かに歩み**て**こそ、心穏やかなれ。

答え：接続助詞「て」 **解説**：「歩み」連用＋「て」＋係助詞「こそ」＋形容動詞「穏やかなれ」已然（こその結び）。「静かに歩んでこそ、心が穏やかになる」。

Q33. 次の傍線部「て」を識別せよ。

> 御簾より見**て**けり。

答え：完了の助動詞「つ」連用形「て」 **解説**：「見」上一段連用＋「て」＋過去「けり」。「御簾から見てしまった」。

Q34. 次の傍線部「て」を識別せよ。

> 我れ若く**して**学に励む。

答え：「くして」（形容詞ク連用「若く」＋サ変連用「し」＋接続助詞「て」） **解説**：「若く」＋「し」＋「て」＋「励む」。「若いうちから学問に励む」。

Q35. 次の傍線部「て」を識別せよ。

> 風吹き**て**舟漂ふ。

答え：接続助詞「て」 **解説**：「吹き」連用＋「て」＋動詞「漂ふ」。「風が吹いて舟が漂う」。

Q36. 次の傍線部「て」を識別せよ。

> 道ありて川**にて**渡る。

答え：傍線部「にて」＝格助詞「にて」 **解説**：「川」＋「にて」＋動詞「渡る」。手段・場所を示す格助詞。「川を場所として渡る」または「川によって渡る」。

Q37. 次の傍線部「て」を識別せよ。

> 知り**て**侍り。

答え：接続助詞「て」 **解説**：「知り」（四段連用）＋接続助詞「て」＋丁寧「侍り」。「て侍り」は「〜ております」の意の接続助詞用法。動作の連結＋丁寧「侍り」で「知っております」と訳す。

Q38. 次の傍線部「て」を識別せよ。

> 暗く**て**月もなし。

答え：形容詞ク連用「暗く」＋接続助詞「て」 **解説**：「暗く」（ク連用）＋「て」＋係助詞「も」＋「なし」。「暗くて月もない」。

Q39. 次の傍線部「て」を識別せよ。

> 御所**にて**召し給ふ。

答え：格助詞「にて」 **解説**：「御所」＋「にて」＋尊敬「召し給ふ」。場所を示す格助詞。「御所でお召しになる」。

Q40. 次の傍線部「て」を識別せよ。

> 一日**にて**二日分働く。

答え：格助詞「にて」 **解説**：「一日」＋「にて」。時間・期間を示す格助詞。「一日で二日分働く」。

Q41. 次の傍線部「て」を識別せよ。

> 物のあはれを知り**て**こそ、人ぞあはれなれ。

答え：接続助詞「て」 **解説**：「知り」連用＋「て」＋係助詞「こそ」＋形容動詞「あはれなれ」已然（こその結び）。「物のあわれを知ってこそ、人は趣がある」。

Q42. 次の傍線部「て」を識別せよ。

> 笛の音絶え**て**久し。

答え：接続助詞「て」 **解説**：「絶え」下二段連用＋「て」＋形容詞「久し」終止。「笛の音が絶えて久しい」。

Q43. 次の傍線部「て」を識別せよ。

> 唐土**にて**書きたる文。

答え：格助詞「にて」 **解説**：「唐土」＋「にて」＋「書き」連用＋存続「たる」連体＋体言「文」。「中国で書いた手紙」。

Q44. 次の傍線部「て」を識別せよ。

> いみじく嘆き**て**けり。

答え：完了の助動詞「つ」連用形「て」 **解説**：「嘆き」連用＋「て」＋過去「けり」。「ひどく嘆いてしまった」。

Q45. 次の傍線部「たり」を識別せよ。

> 山深く分け入り**たり**。

答え：完了・存続の助動詞「たり」終止形 **解説**：「分け入り」（複合動詞、四段連用）＋完了・存続「たり」終止。「山深く分け入っていた」。連用形＋「たり」の標準形。

Q46. 次の傍線部「にして」を識別せよ。

> 風静か**にして**波立たず。

答え：形容動詞「静かなり」連用語尾「に」＋接続助詞「して」 **解説**：「静か」（語幹）＋形容動詞「静かなり」連用語尾「に」＋接続助詞「して」（〜で・〜くて）＋動詞「立た」＋打消「ず」。「風が静かで、波が立たない」。

Q47. 次の傍線部「て」を識別せよ。

> 言ひ**て**やる。

答え：接続助詞「て」 **解説**：「言ひ」連用＋「て」＋動詞「やる」（=送る）。「言ってやる／伝える」。

Q48. 次の傍線部「て」を識別せよ。

> 弓**にて**射る。

答え：格助詞「にて」 **解説**：「弓」＋「にて」＋「射る」。手段を示す格助詞。「弓で射る」。

Q49. 次の傍線部「て」を識別せよ。

> 月隠れ**て**、夜いと暗し。

答え：接続助詞「て」（順接・単純接続） **解説**：下二段「隠る」連用形「隠れ」＋接続助詞「て」＋形容詞「暗し」終止形。「月が隠れて、夜がたいそう暗い」。「て」は古文の接続助詞として最頻出（順接・原因・単純接続）。 ※「月隠れてしまふ」は現代語の「〜てしまう」をそのまま古文化したもので、古文では「月隠れにけり」「月隠れぬ」等が標準。

Q50. 次の傍線部「て」を識別せよ。

> 御使ひに**て**遣はす。

答え：格助詞「にて」 **解説**：「御使ひ」＋「にて」＋謙譲「遣はす」。資格・身分を示す格助詞。「使者として派遣する」。

標準編　／30

【第3部】応用編（Q51〜Q80）

複雑な構文・係り結び・引用を含む応用問題。

Q51. 次の傍線部「て」を識別せよ。

> 心ある人にあらず**して**、何をか言はむ。

答え：「して」（打消「ず」連用＋接続助詞「て」？）or 接続助詞「して」 **正答**：「あら」ラ変未然＋打消「ず」連用＋「して」（接続助詞、=〜なくて）。「心ある人でなくて、何を言おうか」。 ※「ずして」で「〜ないで／〜なくて」の慣用。

Q52. 次の傍線部「て」を識別せよ。

> 春過ぎ**て**夏来にけり白妙の衣干すてふ天の香具山。

答え：接続助詞「て」 **解説**：「過ぎ」連用＋「て」＋カ変「来」連用＋完了「ぬ」連用「に」＋過去「けり」。万葉集の有名な歌。「春が過ぎて、夏が来てしまった」。

Q53. 次の傍線部「て」を識別せよ。

> 嘆き**て**過ぐる夜半に、月かたぶく。

答え：接続助詞「て」 **解説**：「嘆き」連用＋「て」＋下二段「過ぐ」連体「過ぐる」＋体言「夜半」。「嘆いて過ぎる夜中に、月が傾く」。

Q54. 次の傍線部「て」を識別せよ。

> いみじき宿世の人にし**て**、かかる目に遭ふ。

答え：接続助詞「て」 **解説**：「し」（サ変連用「す」）＋「て」 → 「として／であって」の意。「並々ならぬ宿縁の人であって、こんな目に遭う」。

Q55. 次の傍線部「て」を識別せよ。

> 寝**て**さめ**て**、また寝つ。

答え：両方とも接続助詞「て」 **解説**：「寝（ね）」連用＋「て」＋「さめ」（下二段「さむ」連用）＋「て」＋「寝（ね）」連用＋完了「つ」終止。「眠って覚めて、また眠った」。

Q56. 次の傍線部「て」を識別せよ。

> 風吹き**て**雲動く。

答え：接続助詞「て」 **解説**：「吹き」連用＋「て」＋動詞「動く」終止。「風が吹いて雲が動く」。

Q57. 次の傍線部「て」を識別せよ。

> 来**て**見れば、誰もなし。

答え：接続助詞「て」 **解説**：「来（き）」カ変連用＋「て」＋上一段「見る」已然「見れ」＋「ば」（原因）。「来て見たところ、誰もいない」。

Q58. 次の傍線部「て」を識別せよ。

> 神**にて**おはす。

答え：格助詞「にて」 **解説**：「神」＋「にて」＋尊敬補助「おはす」。資格・本質を示す格助詞。「神でいらっしゃる」。 ※「にておはす」は断定的表現（「〜である」の尊敬）。

Q59. 次の傍線部「て」を識別せよ。

> 我れ仕うまつり**て**侍り。

答え：接続助詞「て」 **解説**：「仕うまつり」連用＋「て」＋丁寧「侍り」。「お仕え申し上げております」。

Q60. 次の傍線部「て」を識別せよ。

> 京**にて**生まれ、奈良**にて**育つ。

答え：両方とも格助詞「にて」 **解説**：場所を示す格助詞「にて」。「京で生まれ、奈良で育つ」。

Q61. 次の傍線部「て」を識別せよ。

> 物のあはれ知り**て**こそ、と人言ふ。

答え：接続助詞「て」 **解説**：「知り」連用＋「て」＋係助詞「こそ」＋結び省略「あれ」など。「物のあわれを知ってこそ（〜だ）」。

Q62. 次の傍線部「て」を識別せよ。

> 言ひ**てしか**ば、人みな笑ふ。

答え：完了の助動詞「つ」連用形「て」＋過去の助動詞「き」已然形「しか」＋接続助詞「ば」 **解説**：「言ひ」（四段連用）＋完了「つ」連用形「て」＋過去「き」已然形「しか」＋接続助詞「ば」（原因）。「（つい）言ってしまったので、人々が皆笑う」。「てしか」の連結は完了「つ」連用＋過去「き」已然の組み合わせ。

Q63. 次の傍線部「て」を識別せよ。

> 文を書き**て**遣る。

答え：接続助詞「て」 **解説**：「書き」連用＋「て」＋動詞「遣る」。「手紙を書いて送る」。

Q64. 次の傍線部「て」を識別せよ。

> 草**にて**茂る庭。

答え：格助詞「にて」 **解説**：「草」＋「にて」＋四段「茂る」連体＋体言「庭」。原因・手段を示す格助詞。「草で（おおわれて）茂る庭」。

Q65. 次の傍線部「て」を識別せよ。

> 言は**で**思ふ。

答え：傍線部「で」＝接続助詞「で」（打消接続「〜ないで」） **解説**：「言は」未然＋「で」（打消接続）＋動詞「思ふ」。「言わないで思う」。

Q66. 次の傍線部「て」を識別せよ。

> 山に分け入り**て**、心細し。

答え：接続助詞「て」 **解説**：「入り」連用＋「て」＋形容詞「心細し」終止。「山に分け入って、心細い」。

Q67. 次の傍線部「て」を識別せよ。

> 月夜清く**して**、夜更け知らず。

答え：「くして」（形容詞ク連用「清く」＋サ変連用「し」＋接続助詞「て」） **解説**：「清く」＋「し」＋「て」＋「知らず」。「月夜が清らかで、夜更けを知らない」。

Q68. 次の傍線部「て」を識別せよ。

> 鳥鳴き**て**春来たる。

答え：接続助詞「て」 **解説**：「鳴き」連用＋「て」＋動詞「来たる」。「鳥が鳴いて春が来る」。

Q69. 次の傍線部「て」を識別せよ。

> 心慰めかね**て**、なほ嘆く。

答え：接続助詞「て」 **解説**：「慰めかね」（複合動詞、=慰められない）連用＋「て」＋動詞「嘆く」。「心が慰められなくて、なお嘆く」。

Q70. 次の傍線部「て」を識別せよ。

> 物思ひ**て**過ぐる。

答え：接続助詞「て」 **解説**：「思ひ」連用＋「て」＋下二段「過ぐ」連体「過ぐる」。「物思いをして過ごす」。

Q71. 次の傍線部「て」を識別せよ。

> 御供仕うまつり**て**侍りき。

答え：接続助詞「て」 **解説**：「仕うまつり」連用＋「て」＋丁寧「侍り」連用＋過去「き」。「お供申し上げておりました」。

Q72. 次の傍線部「て」を識別せよ。

> 風吹き**て**寒けれども、なほ行く。

答え：接続助詞「て」 **解説**：「吹き」連用＋「て」＋形容詞「寒し」已然「寒けれ」＋「ども」(逆接)。「風が吹いて寒いけれども、なお行く」。

Q73. 次の傍線部「て」を識別せよ。

> 道**にて**たちまちにわかれぬ。

答え：格助詞「にて」 **解説**：「道」＋「にて」＋副詞「たちまち」＋「に」＋動詞「わかれ」＋完了「ぬ」。「道で突然別れてしまった」。

Q74. 次の傍線部「て」を識別せよ。

> 何を思ひ**て**かさは言ふ。

答え：接続助詞「て」 **解説**：「思ひ」連用＋「て」＋係助詞「か」(疑問) ＋副詞「さ」＋動詞「言ふ」。「何を思ってそのように言うのか」。

Q75. 次の傍線部「て」を識別せよ。

> 仏に祈り**て**、心安し。

答え：接続助詞「て」 **解説**：「祈り」連用＋「て」＋形容詞「安し」終止。「仏に祈って、心が安らぐ」。

Q76. 次の傍線部「て」を識別せよ。

> 京**にて**学びし日。

答え：格助詞「にて」 **解説**：「京」＋「にて」＋動詞「学び」連用＋過去「き」連体「し」＋体言「日」。「京で学んだ日」。

Q77. 次の傍線部「て」を識別せよ。

> 心みだれ**て**眠れず。

答え：接続助詞「て」 **解説**：「みだれ」下二段「みだる」連用＋「て」＋打消「ず」（眠られず）。「心が乱れて眠れない」。

Q78. 次の傍線部「て」を識別せよ。

> 名にし負ひ**て**問ふ。

答え：接続助詞「て」 **解説**：「負ひ」連用＋「て」＋動詞「問ふ」。「名前を負って／名乗って尋ねる」。

Q79. 次の傍線部「て」を識別せよ。

> 露置き**て**葉散る。

答え：接続助詞「て」 **解説**：「置き」連用＋「て」＋動詞「散る」。「露が降りて葉が散る」。

Q80. 次の傍線部「て」を識別せよ。

> 春来**て**夏待つ。

答え：接続助詞「て」 **解説**：「来（き）」カ変連用＋「て」＋動詞「待つ」。「春が来て夏を待つ」。

応用編　／30

【第4部】入試レベル（Q81〜Q100）

Q81. 次の傍線部「て」を識別せよ。

> 三日**にて**、なほつき出でぬ。

答え：格助詞「にて」 **解説**：「三日」＋「にて」＋副詞「なほ」＋動詞「つき出で」連用＋完了「ぬ」。「三日経って、なお出てしまった」。時間・期間を示す格助詞。

Q82. 次の傍線部「て」を識別せよ。

> 中宮、御文書か**せ**たまひ**て**、人にも見せたまふ。

答え：接続助詞「て」 **解説**：「給ひ」連用＋「て」＋動詞「見せ」連用＋「たまふ」。「お書きになって、人にもお見せになる」。

Q83. 次の傍線部「て」を識別せよ。

> 「いと尊し」と申し**て**伏し拝む。

答え：接続助詞「て」 **解説**：「申し」連用＋「て」＋動詞「伏し拝む」。「『とても尊い』と申し上げて、伏し拝む」。

Q84. 次の傍線部「て」を識別せよ。

> 都を発ち**て**幾日になりぬらむ。

答え：接続助詞「て」 **解説**：「発ち」連用＋「て」＋形容詞「幾日」＋格助詞「に」＋動詞「なり」連用＋完了「ぬ」＋現在推量「らむ」。「都を発ってから何日になっただろうか」。

Q85. 次の傍線部「て」を識別せよ。

> 名にし負はばいざ言問はむ都鳥わが思ふ人はあり**や**なし**や**と、人問ひ**て**、舟人涙にむせぶ。

答え：接続助詞「て」 **解説**：「問ひ」連用＋「て」＋動詞「むせぶ」。伊勢物語「東下り」の場面。「と人が尋ねて、舟人が涙にむせぶ」。

Q86. 次の傍線部「て」を識別せよ。

> 春のあけぼの、やうやう白くなりゆく山際、すこしあかり**て**、紫だちたる雲のほそくたなびきたる。

答え：接続助詞「て」 **解説**：「あかり」連用＋「て」＋動詞「紫だち」連用。枕草子冒頭。「少し明けて、紫がかった雲が細くたなびいている」。

Q87. 次の傍線部「て」を識別せよ。

> もの隔て**て**聞けば、宮の御方より、御文奉り給ふ。

答え：接続助詞「て」 **解説**：「隔て」下二段連用＋「て」＋動詞「聞く」已然「聞け」＋「ば」（原因）。枕草子の文体。「物を隔てて聞いたところ」。

Q88. 次の傍線部「て」を識別せよ。

> 月の都の人にし**て**、月を恋ふ。

答え：接続助詞「て」 **解説**：「し」（サ変連用「す」）＋「て」 → 「として／であって」。「月の都の人として、月を恋しがる」。竹取物語の文体。

Q89. 次の傍線部「て」を識別せよ。

> 山に分け入り**て**、心ぼそし。

答え：接続助詞「て」 **解説**：「入り」連用＋「て」＋形容詞「心ぼそし」終止。「山に分け入って、心細い」。徒然草の文体。

Q90. 次の傍線部「て」を識別せよ。

> 内裏より召し**て**、参り給ふ。

答え：接続助詞「て」 **解説**：「召し」四段連用＋「て」＋謙譲「参り」連用＋尊敬「給ふ」終止。「内裏からお召しになって、参上なさる」。

Q91. 次の傍線部「て」を識別せよ。

> 御簾少し上げ**て**、花奉らするを、…

答え：接続助詞「て」 **解説**：「上げ」下二段連用＋「て」＋動詞「奉らする」（謙譲）。「御簾を少し上げて、花をお供えさせるのを」。枕草子「香炉峰の雪」の文体。

Q92. 次の傍線部「て」を識別せよ。

> 春の野に、若菜摘み**て**遊ぶ人。

答え：接続助詞「て」 **解説**：「摘み」連用＋「て」＋動詞「遊ぶ」連体＋体言「人」。「春の野で、若菜を摘んで遊ぶ人」。

Q93. 次の傍線部「て」を識別せよ。

> 嵐**にて**舟、岸に流れ着く。

答え：格助詞「にて」 **解説**：「嵐」＋「にて」＋動詞「流れ着く」。原因を示す格助詞。「嵐によって舟が岸に流れ着く」。

Q94. 次の傍線部「て」を識別せよ。

> いみじき宿世の人にし**て**、かかる目に遭ふ。

答え：接続助詞「て」 **解説**：「し」（サ変連用）＋「て」。「並々ならぬ宿縁の人であって、このような目に遭う」。

Q95. 次の傍線部「て」を識別せよ。

> 木の葉に埋もるる懸樋のしづくならで**は**、つゆおとなふものなし。

答え：傍線部「で」＝接続助詞「で」（打消接続） **解説**：「なら」（断定「なり」未然）＋「で」（打消接続）＋係助詞「は」。徒然草第十一段。「木の葉に埋もれた懸樋のしずく以外には、まったく音をたてるものがない」。

Q96. 次の傍線部「に」を識別せよ。

> 寝**にける**人ぞ多かりける。

答え：完了の助動詞「ぬ」連用形「に」＋過去「けり」連体形「ける」 **解説**：「寝（ね）」（下二段連用）＋完了「ぬ」連用形「に」＋過去「けり」連体形「ける」＋体言「人」＋係助詞「ぞ」＋形容詞「多し」連用＋過去「けり」連体形「ける」（ぞの結び）。「眠ってしまった人が多いことだなあ」。「にける」は完了「ぬ」＋過去「けり」の標準形。

Q97. 次の傍線部「て」を識別せよ。

> 大納言、御参り**にて**おはす。

答え：格助詞「にて」 **解説**：「御参り」＋「にて」＋尊敬「おはす」。状態・資格を示す格助詞。「大納言は参上した状態でいらっしゃる」。

Q98. 次の傍線部「て」を識別せよ。

> 月清くし**て**夜長し。

答え：「して」（サ変連用「し」＋接続助詞「て」） **解説**：「清く」（ク連用）＋「し」（サ変連用）＋「て」＋形容詞「長し」終止。「月が清らかで、夜が長い」。

Q99. 次の傍線部「て」を識別せよ。

> 行く川のながれは絶えず**して**、しかも、もとの水にあらず。

答え：「して」（打消「ず」連用＋接続助詞「て」） **解説**：「絶え」下二段連用＋打消「ず」連用＋「して」（接続助詞）。方丈記冒頭。「行く川の流れは絶えないで、しかも、もとの水ではない」。

Q100. 次の傍線部「てしがな」を識別せよ。

> 知り**て**しがな、と思ふ。

答え：願望の終助詞「てしがな」全体で一語（自己実現の願望「〜したいなあ」） **解説**：「てしがな」は連用形接続の願望終助詞で、「て」（完了「つ」連用形）＋「し」（過去「き」連体形）＋「がな」（願望終助詞）から成立した複合形。一語として「〜してしまいたいなあ」の意。「知り」（四段連用形）＋「てしがな」＋引用「と」＋「思ふ」。「知ってしまいたいなあ、と思う」。 ※「て」単独ではなく「てしがな」を一塊で覚えるのが古文の定石。類例：「見てしがな」「住み果ててしがな」。

入試レベル　／20

合計　／100

あとがき

「て」の識別の核心： - **接続助詞「て」** が圧倒的に多い（連用形＋「て」＋動作） - **完了「つ」連用形「て」** は下に「き／けり／たり／つる」など - **格助詞「にて」** は体言＋「にて」、場所・時間・手段・資格 - **「して」** はサ変連用「し」＋接続助詞「て」、または打消「ず」＋「して」

「で」（打消接続）と混同しないこと。

著作権：個別指導塾フィット / 中本裕太